上越市立高志小学校学校だより　No.1525　令和２年度　No.6　　令和２年６月24日

六花の輝き

＜教育目標＞
喜んで登校し、
生き生きと学ぶ子ども

〒943-0805 上越市木田３－１－２５
TEL　025-523-3858　FAX　025-525-7188
E-mail takashi@jorne.or.jp

あいさつ･･･これがなかなか

校長　遠藤　和英

もう６月が終えようとしています。通常なら１学期の中盤を終え、いよいよまとめに入る時期です。しかし、今年度は、感染症の影響で休業や分散登校等があったためでしょうか、まだ１学期末を迎えるという感じがしません。

さて、そうは言ってももう６月です。先日、子どもたちも職員も互いのことを知り、慣れてきたこの時期に、職員全員で子どもたちの様子について互いに感じていることを共有する時間をもちました。子どもたちのよいところ、さらに育てていきたいところなどを自由に出し合い共有しました。また、最後にさらに育てたいところからターゲットを一つ決め、職員全員で今まで以上に意識を高くもち共通して指導にあたることにしました。職員がそれぞれ感じていることが違いますからいろいろな内容が出されたのですが、なかでも多かったのは「あいさつ」と「話の聞き方」についてです。この２つについては、多くの職員がさらに力を付けていきたいと感じていました。さらに話し合い、まずは「あいさつ」に力を入れて指導をしていこうと共通理解を図りました。

保護者のみなさん、地域のみなさんは、高志小の子どもたちのあいさつをどのように感じていますか？　私は、正直、残念だと感じています。朝、「おはよう」と声をかけても、７割いや８割の子どもたちが無言で素通りです。初めのころは転勤してきたばかりだから自分のことが認識されていないのではないか、また、マスクをしているから実際は言っているけどこちらが聞こえないだけなのではないかなどとも考えましたが違いました。しばらくたっても状況は改善せず、なかには目が合っているのに素通りしていく子どももいます。実際に何人もの子どもに素通りされると、大人でもさすがに気持ちが落ち込みます。

しかし、学校職員ですから落ち込んではいられません。子どもたちに「あいさつ」という社会性が身に付いていなければ、少しでも身に付くように行動していく必要があります。集会を開き気持ちのよいあいさつについて指導する職員、あいさつの意味や大切さを指導する職員、今まで以上に明るいあいさつをして子どもたちのモデルとなる級外職員など、先日の話し合いの翌日から、職員はそれぞれにできる方法を考えて行動しています。まだまだ途中経過なのですが、職員が意識して行動を始める前より、校舎の中で明るいあいさつが確かに多く聞かれるようになってきました。途中、生活委員や５年生が「あいさつ運動」をして子どもたちの意識を高めてくれたことも相乗効果として働いたのだと思います。ただ、まだまだ声が出ない子どもも多いのが現状です。

あいさつは人とのコミュニケーションの第一歩です。誰とでも気持ちのよいあいさつを交わせることは、子どもたちに身に付けてほしい将来に生きる社会性の一つです。学校では、これからも指導を継続していきます。どうぞ家庭でも地域でも、子どもたちを明るいあいさつで包んでください。よろしくお願いします。

最後に余談になりますが、子どもたちの「おはようございます」と「さようなら」、どちらが明るく大きな声か分かりますか？　答えはもちろん「さようなら」です。早く家に帰りたい気持ちが自然と声に出るのですね。